

「街の住みこちちランク2021」

県内で弘前市1位



「街の住みこちちランキング2021青森県版」で1位に輝いた弘前市(同市提供)

賃貸住宅最大手の大東建託(本社東京都、小林克満代表取締役社長)が14日に公表した「いい部屋ネット 街の住みこちちランキング2021青森県版」で、弘前市が1位に輝いた。同市は「住みこちち」の因子別順位でも、「生活利便性」「イメージ」「自然観光」など五つの項目で首位となった。対象が今年から東北の自治体に拡充された「住みたい街ランキング」でも弘前市は仙台市に次いで2位だった。

(成田真由美)

東北自治体「住みたい街」は2位

居住満足度に関する両調査は県内居住者を対象に実施したもので、2019年、20年、21年の3回の調査の累積回答者計4516人の結果。

「住みこちちランキング」は、回答者に自分が住んでいる自治体を評価してもらい集計した。昨年3位だった弘前市は順位を上げてトップに。次いで、おいらせ町、青森市、藤崎町、八戸市の順だった。

県内で3番目に人口が多い弘前市は、弘前藩の城下町として栄えた街並みや市の中心部に都市機能が充実し、市内で100円バスが

運行されるなど利便性が高いことが好順位につながった。

「住みこちち」トップ10自治体の因子別順位でも弘前市は、8項目のうち「生活利便性」「行政サービス」「親しみやすさ」「イメージ」「自然観光」の5項目で1位となった。

今回、対象を東北の自治体に拡充した「住みたい街ランキング」では1位が仙台市、次いで弘前市、八戸市、青森市、盛岡市の順で、2〜4位を本県の自治体が占めた。

弘前市の魅力について、市企画課の白戸麻紀子課長は「都市機能がある一方で自然も近く、都会と田舎の調和が取れている。子育てにも適している」とした。今回の結果については「大変うれしい。これまで民間も含めてまちづくりを進めてきた成果が出てきたのではないかな。今後も市民に住み続けたいと思ってもらえるような街づくりを継続し、『あずましい街弘前』をPRしながら、移住促進などにもつなげていきたい」と話した。

※この記事は陸奥新報社の提供です。
※この画像は当該ページに限り陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは難くお断りします。